

## I. 2014年度の活動計画・実績

## 1. 活動計画(2013年度アニュアルレビュー報告資料(委員長:三浦要一)記載事項)

(1) SPOD研修「大人数講義を魅力的にするテクニック」:昨今の高等教育に強く求められている参加体験型授業「アクティブ・ラーニング型」について理解を深める(9月予定)。

(2)「教員相互の授業公開」のシラバス記載の追加等→教務委員会において検討。

(3)「英語での授業」の実施→留学生確保およびグローバル化にかかわる課題として、国際交流委員会において検討。

## 2. 活動実績

## (1) FD研修会等の実施

表-1 高知県立大学FD委員会開催研修会等の参加状況

[人数(%)]

調査項目		全体	文化	看護	社会福祉	健康栄養	地・総
総数	専任教員総数 <sup>1)</sup>	109	18	46	23	14	8
	参加実総人数 <sup>2)</sup> (%)	99 90.8	13 72.2	45 97.8	21 91.3	13 92.9	7 87.5
	参加延総人数 <sup>2)</sup> (参加回数/人) <sup>3)</sup>	278 2.55	23 1.28	120 2.61	52 2.26	57 4.07	26 3.25
主催研修会	0. 参加実総人数 (%)	64 58.7	6 33.3	31 67.4	15 65.2	9 64.3	3 37.5
	1. 大人数講義を魅力的にするテクニック	33	3	11	12	5	2
	2. 大学ユニバーサル化の時代のFDの意義とは?	23	2	9	8	2	2
	3. 学習動機を高める授業づくり	24	1	19	0	2	2
共催研修会	0. 参加実総人数 (%)	92 84.4	12 66.7	42 91.3	18 78.3	13 92.9	7 87.5
	4. 中国の生活及び保健医療の状況	15	0	1	1	13	0
	5. 高知県立大学ハラスメント研修会	54	8	22	8	11	5
	6. 日本・スウェーデン両国の健康と福祉	15	3	2	4	2	4
	7. 生命科学と研究倫理	12	0	2	0	8	2
	8. 「域学共生」に関するFD研修会	71	5	37	16	8	5
9. 「立志社中」活動成果報告会	31	1	17	3	6	4	

註1) 2014/04/01時点の専任教員数のうち、長期研修中・育休中などをのぞく、参加可能な人数。/  
2) 高知県立大学FD委員会主催または共催の研修会等に、少なくとも1回以上参加したことのある人数。各回の研修会参加者数を単純に加算してもこの実人数とは一致しない。/  
3) [参加回数/人]=[参加延総人数]/[専任教員総数]。

## (2) 授業向上等にかんするアンケート調査2014の実施

表-2 2014調査の概要

	専任教員 総数 <sup>1)</sup>	有効回答 者数 <sup>2)</sup>			調査B回答件数 (件数/人) <sup>3)</sup>
			調査A回答者数	調査B回答者数	
0. 総数	109 100.0	52 47.7	46 42.2	28 25.7	47 0.43
1. 文化学部	18 100.0	12 66.7	8 44.4	7 38.9	12 0.67
2. 看護学部	46 100.0	9 19.6	9 19.6	1 2.2	1 0.02
3. 社会福祉学部	23 100.0	16 69.6	15 65.2	9 39.1	10 0.43
4. 健康栄養学部	14 100.0	9 64.3	9 64.3	5 35.7	5 0.36
5. 地域教育研究センター 総合情報センター	8 100.0	6 75.0	5 62.5	6 75.0	19 2.38

註1) 「専任教員総数」は「表-1」と同じ。/  
2) 「有効回答者数」は「調査A」または「調査B」のすくなくともいずれかに回答したもの。/  
3) 「件数/人」は所属部署の選任教員総数にたいする1人あたり件数。

## II. 2015年度の活動計画

### 全学FD委員会の短中長期的活動方針

141022高知県立大学FD委員会として確定  
141022副学長指示により保留

#### 1. 短期的および中長期的課題(継続的に実施する課題)

2014年度も含めて、2015年度以降も継続して実施する課題。

##### (1) 教員の教育力向上のための種々の認識・知識・技術向上に資する講演・研修会等の実施

①アクティブ・ラーニング手法を中心に、種々の授業向上技法・手法等にかんして、教員の具体的な授業技術の向上のためおよび認識向上のために必要な講演・研修会等の実施：2015年度SPOD派遣研修会「学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは?」(高知大学・塩崎俊彦教授)[2015年8月下旬～9月上旬(予定)]

##### (2) 各種のFD活動の実態・意向・効果測定等のための調査等の実施

②授業向上等にかんする実態調査、FD活動等にかんする意向調査、FD活動による授業向上等の効果測定調査、などを実施し、結果を適切なかたちで公表する。

#### 2. 中期的課題

可能なものは2015年度から実施するが、状況をみながら、今後2～3年以上かけて実施に取り組む課題。必要に応じて、その後継続して実施する。

##### (3) 多様な学生支援のための種々の認識・知識・技術向上に資する講演・研修会等の実施と、学内体制整備・構築等に必要の行動

③発達障害をもった学生の支援にかんする、教員の認識・知識・技術の向上のために必要な講演・研修会等の実施

④発達障害をもった学生の支援のために必要な、学内体制の整備・構築にかんする知見の獲得等のために必要な講演・研修会等の実施と、学内組織体制の整備・構築のための具体的な行動

⑤発達障害のほか、色弱・性同一性障害など、多様な個性とニーズをもった学生への理解を深め、必要な支援等をおこなえるようにするための、教員の認識・知識・技術の向上のために必要な講演・研修会等の実施

##### (4) 各教員の教育のふりかえりと教育力向上のための、ティーチング・ポートフォリオ作成のためのワークショップ参加(学外)および開催(学内)

ティーチング・ポートフォリオの有用性・有効性等については、アメリカの大学教育でははやくから実証されており、日本でも多くの大学で実施されはじめている。

⑥2015年度から、ティーチング・ポートフォリオの学外ワークショップに、経験者がまだいない学部・センターを中心に継続して派遣する。

⑦2016年度または2017年度をめどに、ティーチング・ポートフォリオの学内ワークショップを実施できるようにする。

#### 3. 長期的課題

短期的課題・中期的課題の実施・達成状況をみながら、今後4～5年以上かけて実施に取り組む課題。2～3年後に、短期的課題または中期的課題として取り組むかどうかについての議論等をおこない、あらためて実施等について判断する。

(5) 学生によるFD活動への参加・参画による効果や、そのために必要な学内体制整備等にかんする知見の獲得等のために必要な講演・研修会等の実施

(6) 教員相互の授業公開による授業向上・教育力向上等の効果や、そのために必要な学内体制整備等にかんする知見の獲得等のために必要な講演・研修会等の実施

#### 4. 学外のFD講演・研修会等の取扱について

(a) FDにかんする学外の講演・研修会等について、時間的な余裕がある場合には、その内容を各FD委員に確認していただき、派遣を希望する学部・センターの確認等をおこなったうえで、派遣希望がある学部・センターを中心に募集・派遣要請等をおこなうようにする。時間的な余裕がない場合には、従来どおり全教員に募集するとともに、そのテーマ・内容等から委員長が判断して特定の学部・センターへの派遣要請をおこなう場合がある(この要請は、当該学部・センターのFD委員にたいしておこなう)。

(b) FDにかんする学外の講演・研修会等のうち、そのテーマ・内容がこの「全学FD委員会の短中長期的活動方針」に関連するものである場合には、上記(a)によるほか、必要に応じてFD委員会からの要請として、特定の学部・センターを中心に募集・派遣要請等をおこなう。

#### 5. 学内のFD講演・研修会等の取扱について

(c) 各学部・センターが主催して実施するFD講演・研修会等については、企画が決定した時点で当該学部・センターのFD委員からFD事務局に通知していただき、当該学部・センターのFD委員または全学FD委員長の要請によって全学FD委員会との共催として実施していただくよう主催者(学部長・センター長)に依頼することを全学FD委員会で決定し、その後主催者に全学FD委員長名で共催を依頼する。

(d) 上記(c)によって共催となったFD講演・研修会等については、その実施に要する経費の支出、参加教員の出席の確認、などにかんして、全学FD委員会が企画・主催するFD講演・研修会等と同様に取扱うものとする。

#### 6. 大学または各学部・センター等の事業に関連して必要となるFD活動について

(e) 大学または各学部・センター等の事業に関連して必要となるFD活動については、当該部局等と連携しつつ、全学FD委員会における議論にもとづいて、そのつど必要な活動を企画・実施する。

以上